

第16回東北高等学校放送コンテスト岩手大会 開催要項 2012-12-14版

<http://www2.iwate-ed.jp/housou/tohoku/>

1. 目的
豊かな創造性と未来への展望を持つ人間としての高校生に対して 校内放送をとおし番組の制作技術の向上, 表現力, 創造性の開発および, 豊かなコミュニケーションと文化活動の振興を図る。
2. 主催
東北地区高等学校文化連盟放送部会
3. 共催
岩手県教育委員会・岩手県高等学校文化連盟
4. 主管
岩手県高等学校文化連盟放送専門部
5. 後援
盛岡市教育委員会・報道各社
6. 日時
平成25年2月2日(土)12:40~18:00
平成25年2月3日(日)9:00~14:30
7. 会場
岩手県民会館 <http://www.echna.ne.jp/iwkenmin/>
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13-1
盛岡駅よりバス(バスセンター行 他)にて「県庁・市役所前」下車, 徒歩2分 tel. 019-624-1171
8. 開催部門 (参加規定, 制作・審査規定参照)
 - (1)アナウンス部門
 - (2)朗読部門
 - (3)ラジオキャンペーン部門
 - (4)テレビキャンペーン部門
9. 審査員 (制作・審査規定参照)
大会会長が委嘱する専門職審査員および各県代表の教育職審査員による。
10. 表彰
 - (1)アナウンス部門・朗読部門
最優秀賞 1 賞状・副賞(トロフィー)
優秀賞 2 賞状・副賞(トロフィー)
優良賞 3 賞状・副賞(楯)
入選 4 賞状
奨励賞 10 賞状
 - (2)ラジオキャンペーン部門・テレビキャンペーン部門
最優秀賞 1 賞状・副賞(トロフィー)
優秀賞 2 賞状・副賞(トロフィー)
優良賞 3 賞状・副賞(楯)
入選 4 賞状
11. 日程
2月2日(土)
11:40~12:40 総合受付(大ホールロビー)
11:50~12:30 準決勝審査員打合せ(第1会議室)
12:40~13:10 開会行事(大ホール)
13:30 ラジオキャンペーン部門準決勝(大ホール)
13:50 アナウンス部門準決勝A(中ホール)
13:50 朗読部門準決勝A(第1会議室)
13:50 朗読部門準決勝B(第2会議室)
15:10 テレビキャンペーン部門準決勝(大ホール)
15:20 アナウンス部門準決勝B(中ホール)
17:00~18:00 講演会(生徒対象, 大ホール)
17:00~18:00 総会(顧問会議, 中ホール)
2月3日(日)
9:00 開場
9:15~9:30 決勝進出者(校)発表・決勝受付(大ホール)
9:15~9:40 決勝審査員打合せ(第1会議室)
9:50 ラジオキャンペーン部門決勝(大ホール)
10:10 テレビキャンペーン部門決勝(大ホール)
10:40 アナウンス部門決勝(大ホール)
11:40 朗読部門決勝(大ホール)
12:40~13:30 昼食・休憩 決勝審査会(第1会議室)
13:30~14:00 講評(大ホール)
14:00~14:30 閉会行事(大ホール)
12. 各種規定
参加規定, 制作・審査規定, 台本様式等は, 別に定める。
岩手県高等学校文化連盟放送専門部のwebサイトで公開する。 <http://www2.iwate-ed.jp/housou/tohoku/>
13. 宿泊等
宿泊および昼食の斡旋, 指導者研修会(2月2日)の申込み受付については, 別紙により指定業者が行う。
申込締切: 平成24年12月7日(金)

第 16 回東北高等学校放送コンテスト岩手大会 参加規定

<http://www2.iwate-ed.jp/housou/tohoku/>

1. 参加資格

各県事務局から推薦された個人または学校。東北 6 県以外からのエントリー(オブザーバー参加)については、11 月 30 日(金)正午までに、それぞれの都道府県事務局を通じて、大会事務局にメールで照会のこと。

2. 各県推薦(エントリー)

(1)推薦(エントリー)数

ア アナウンス部門・朗読部門 各県 12 名以内、開催県は 14 名以内、かつ、1 名 1 部門。

イ ラジオキャンペーン部門・テレビキャンペーン部門 各県 6 本以内、開催県は 8 本以内、かつ、それぞれの部門について各校 2 本以内。

(2)推薦(エントリー)締切 平成 24 年 12 月 7 日(金)正午

(3)推薦(エントリー)方法 各県事務局から大会事務局に、別に配布する様式により作成した電子データを、メールで送付する。

3. 参加料

(1)各部門とも 1 名(1 本)につき、6,000 円

(2)納入期限 平成 24 年 12 月 7 日(金)正午

(3)納入方法 各県事務局がとりまとめの上、大会の口座に振り込む。振込手数料は、各県事務局負担。

北日本(きたにほん)銀行 滝沢(たきざわ)支店
普通 7 0 1 9 8 2 5

東北高校放送コンテスト 佐野武徳(さのたけのり)

(4)その他 領収書は銀行発行のものとする。

4. 原稿・台本・作品の提出

(1)提出する原稿・台本・テープ等の数

ア アナウンス部門・朗読部門 原稿 3 部

イ ラジオキャンペーン部門 CD1 枚・台本 3 部

ウ テレビキャンペーン部門 DVD1 枚・台本 3 部

(2)提出締切 平成 25 年 1 月 18 日(金)正午必着

(3)提出方法 各県事務局とりまとめの上、大会事務局に、郵送または宅配便により送付する。費用は各県事務局負担。

5. その他

(1)当コンテストのために集められた個人情報については、コンテストの目的以外には使用しない。

(2)使用著作物については、著作隣接権を含め、権利者の許諾を得るとともに、制作者の責任において権利関係を適切に処理すること。

(3)応募された番組などは、主催者に関連する印刷媒体、ウェブサイト、放送などで利用することがある。制作にあたっては、番組に登場する著作物や出演者、協力していただいた方々などから、公開の承諾を得ておくこと。

6. 大会事務局

岩手県立宮古工業高等学校 菊地達哉

housou.iwate@gmail.com

〒027-0202 岩手県宮古市赤前 1-81

tel. 0193-67-2201 fax. 0193-67-2215

<http://www2.iwate-ed.jp/housou/tohoku/>

手続き一覧

送付者	内容	方法	送付先	締切
参加校	宿泊・昼食・指導者研修会参加申込み	FAX	指定業者	12 月 7 日(金)正午
	宿泊・昼食・指導者研修会代金	口座振込	指定業者口座	(業者の指定期日)
各県事務局	参加者・参加校推薦、審査員報告	メール	大会事務局	12 月 7 日(金)正午
	参加料、東北高文連放送部会費	口座振込	大会事務局口座	
	原稿/台本・CD/DVD	郵送等	大会事務局	1 月 18 日(金)正午必着

第 16 回東北高等学校放送コンテスト岩手大会 制作・審査規定 2012-12-14 版

<http://www2.iwate-ed.jp/housou/tohoku/>

1. アナウンス部門

(1)内容 次のア、イのいずれかの規定による。

ア 第60回NHK杯全国高校放送コンテスト：自校の校内放送に使用するものとし、原稿を生徒が自作したものに限る。

イ 第37回全国高等学校総合文化祭(長崎大会)：郷土の話題を全国の高校生に伝える内容の自作原稿。なお、静止画は使用できない。

(2)規定時間 番号と氏名を読むこととし、それらを含め、1分10秒以上1分30秒以内。

(3)原稿様式 次のア・イにより作成する。提出後の内容の変更は認めない。

ア 表紙は様式1-1、2ページは様式1-2、3ページ以降は様式1-3による。

イ 原稿の大きさはA4判の袋とじ(2カ所)とし、仕上りA5縦判で3部作成する。

(4)審査の視点 次のア、イに留意して、総合的に採点する。

ア 内容

(a)素材の選び方は適当であるか

(b)文章表現は適当であるか

イ アナウンスの技術

(a)自然な発声で聞き手に伝わるようにアナウンスされているか

・発声・発音・マイクの使い方

(b)正しく伝える抑揚表現ができているか

・内容把握・イントネーション・プロミネンス・アクセント

(c)間(ポーズ)は適切か

・テンポ・ポーズ

(5)準決勝

ア 出場者はA・Bの2会場に分かれて、エントリー番号順に、事前に提出した原稿をアナウンスする。

イ 各会場から10名ずつ、計20名を決勝に推薦する。東北6県以外からのエントリー(オブザーバー参加)が規定の順位に入った場合は、前記とは別枠で決勝に推薦する。

ウ 不測の事態による遅刻と会長が認めた場合に限り、次の措置をとることができるものとする。

準決勝終了までに到着した場合、エントリー番号にかかわらず準決勝の発表を認める。

準決勝に間に合わない場合、決勝での発表を認める。ただし原則として表彰の対象としない。

2. 朗読部門

(1)内容 次のア、イのいずれかの規定による。いずれ

の場合も作品の改変は認めない。

ア 第60回NHK杯全国高校放送コンテストの指定候補作品の中から1編を選び、自己の表現したい部分を抽出して朗読する。

「夏草冬濤(上)・(下)」井上靖(新潮文庫)

「語りかける花」志村ふくみ(ちくま文庫、収録作品のいずれも可)

「茨の木」さだまさし(幻冬舎文庫)

「みずうみ」シュトルム著 関泰祐訳(岩波文庫、指定された訳者のみ、収録作品のいずれも可)

「枕草子」清少納言(現代語訳不可、出版社不問)

イ 第37回全国高等学校総合文化祭(長崎大会)の規定：それぞれの郷土にゆかりのある作家または作品。なお、BGMは使用できない。

(2)規定時間 番号、氏名、著者名(訳者名は読まない)、作品名(アは短編名)を読むこととし、それらを含め、1分30秒以上2分00秒以内。

(3)原稿様式 次のア・イにより作成する。提出後の作品、朗読箇所の変更は認めない。

ア 表紙は様式1-1、2ページは様式1-2、3ページ以降は様式1-3による。

イ 原稿の大きさはA4判の袋とじ(2カ所)とし、仕上りA5縦判で3部作成する。

(4)審査の視点 次のア、イに留意して、総合的に採点する。

ア 内容

(a)作品の選定は適当であるか

(b)朗読として適切な部分を抽出しているか

イ 朗読の技術

(a)内容表現上、声の出し方や言葉の運びが自然で適切か

・発声・発音・マイクの使い方

(b)正しく伝える抑揚表現ができているか

・内容把握・イントネーション・プロミネンス・アクセント

(c)間(ポーズ)は適切か

・テンポ・ポーズ

(5)準決勝

ア 出場者はA・Bの2会場に分かれて、エントリー番号順に、事前に提出した原稿を朗読する。

イ 各会場から10名ずつ、計20名を決勝に推薦する。東北6県以外からのエントリー(オブザーバー参加)が規定の順位に入った場合は、前記とは別枠で決勝に推薦する。

ウ 不測の事態による遅刻と会長が認めた場合に限り、次の措置をとることができるものとする。

準決勝終了までに到着した場合、エントリー番号にかかわらず準決勝の発表を認める。

準決勝に間に合わない場合、決勝での発表を認める。ただし原則として表彰の対象としない。

3. ラジオキャンペーン部門

(1)内容 指定するキーワードを題材とした番組。

ア 高校生らしい自由な視点からアピールする。

イ 内容や構成は自由とするが、学校生活のみならず、広く社会に視点を求めた高校生らしい切り口や主張のある作品が望ましい。

ウ 番組は、参加資格を有する自校生徒オリジナルのものであること。すでに発表・放送・出版されたものや、他の作品などからの脚色や改作は認めない。

エ 放送番組として不適切な内容や表現を含まないこと。

(2)キーワード 「ところが、」

(3)規定時間 30秒以上1分00秒以内。

(4)制作様式 次のア～キにより制作する。提出後の内容の変更は認めない。

ア CD-DA形式で作成したCDを提出する。バックアップとして同じ内容を録音したカセットテープを大会当日持参すること。

イ CDには、様式6または準ずる独自様式で、エントリー番号・学校名・タイトルを記載すること。

ウ 再生は、モノラル(L+R)で行う。

エ 最初に「ラジオキャンペーン部門」「作品名」の順でクレジットコールを入れたのち、3秒後に本編を開始する。

オ 本編の最後の音から3秒後に「制作は 高等学校(放送部・委員会)でした」のクレジットコールを入れる。

カ クレジットコールにはBGMや効果音をつけないこと。

キ 計時は本編の最初の音から、終わりのクレジットコールの「制作は 高等学校(放送部・委員会)でした」の「せ」の音までとし、その計測値から3秒を差し引いた値をもって再生時間とみなす。

(5)台本様式 次のア～オにより作成する。提出後のタイトル、内容の変更は認めない。

ア タイトルの文字は、JISコードの範囲内の全角15文字相当以内とする。

イ 表紙は様式2-1、2ページは様式2-2による。3ページ以降は様式2-3に準ずる独自様式でもよい。

ウ 最終ページは様式4により、使用著作物一覧を記入する。

エ 末尾に、音源使用許諾書(様式自由)、JASRACの明細書、その他使用したすべての著作物について、使用の許諾を得たことを示す文書の写しを貼付す

る。

オ 台本の大きさはA4判の袋とじ(2カ所)とし、仕上りA5縦判で3部作成する。

(6)審査の視点 次のア、イに留意して、総合的に採点する。

ア テーマ

・指定のキーワードを理解し、番組内容にテーマを効果的に表現しているか

・ラジオの特性を活かして作品に表現しているか

イ 制作技術

(a)制作の手法

(b)取材の方法や努力

(c)企画構成

(d)演出・編集

(e)技術

・録音の技術

・アナウンスやナレーションの技術

・音楽や効果音の使い方など

(7)準決勝

10本を決勝に推薦する。東北6県以外からのエントリー(オブザーバー参加)が規定の順位に入った場合は、前記とは別枠で決勝に推薦する。

4. テレビキャンペーン部門

(1)内容 指定するキーワードを題材とした番組。

ア 高校生らしい自由な視点からアピールする。

イ 内容や構成は自由とするが、学校生活のみならず、広く社会に視点を求めた高校生らしい切り口や主張のある作品が望ましい。

ウ 番組は、参加資格を有する自校生徒オリジナルのものであること。すでに発表・放送・出版されたものや、他の作品などからの脚色や改作は認めない。

エ 放送番組として不適切な内容や表現を含まないこと。

(2)キーワード 「ところが、」

(3)規定時間 30秒以上1分00秒以内。

(4)制作様式 次のア～オにより制作する。提出後の内容の変更は認めない。

ア DVD-Video形式で作成したDVDを提出する。NTSC規格4:3または16:9のいずれか。バックアップ用として同じ内容を録画したVHSまたはS-VHSテープ(標準モード、Hi-Fi音声、オリジナルが16:9の場合は4:3のレターボックスとする)を大会当日持参すること。

イ DVDには、様式6または準ずる独自様式で、エントリー番号・学校名・タイトルを記載すること。

ウ 音声の再生は、モノラル(L+R)で行う。

エ 本編の前後に10秒間ずつ、様式5のテストパターンを入れる。テストパターンは無音とする。

オ 計時は初めのテストパターンの終了時から、終わりのテストパターンの最初までとする。

(5)台本様式 次のア～オにより作成する。提出後のタイトル、内容の変更は認めない。

ア タイトルの文字は、JIS コードの範囲内の全角15文字相当以内とする。

イ 表紙は様式3-1、2ページは様式3-2による。3ページ以降は様式3-3に準ずる独自様式でもよい。

ウ 最終ページは様式4により、使用著作物一覧を記入する。

エ 末尾に、音源使用許諾書(様式自由)、JASRACの明細書、その他使用したすべての著作物について、使用の許諾を得たことを示す文書の写しを貼付する。

オ 台本の大きさはA4判の袋とじ(2カ所)とし、仕上りA5縦判で3部作成する。

(6)審査の視点 次のア、イに留意して、総合的に採点する。

ア テーマ

- ・指定のキーワードを理解し、番組内容にテーマを効果的に表現しているか
- ・テレビの特性を活かして作品に表現しているか

イ 制作技術

- (a)制作の手法
- (b)取材の方法や努力
- (c)企画構成
- (d)演出・編集
- (e)技術
 - ・撮影や録音の技術
 - ・アナウンスやナレーションの技術
 - ・音楽や効果音の使い方など

(7)準決勝

10本を決勝に推薦する。東北6県以外からのエントリー(オブザーバー参加)が規定の順位に入った場合は、前記とは別枠で決勝に推薦する。

5. 審査員(全部門共通)

(1)準決勝 専門職審査員1名および教育職審査員6名(各県1名)の7名で行う。

(2)決勝 専門職審査員4名および教育職審査員6名(各県1名)の10名で行う。

6. 採点・講評(全部門共通)

(1)部門の「審査の視点」に基づき、100点法、1点刻みで総合的に採点する。

(2)採点のめやすは次のとおりとする。

20 30 40 50 60 70 80 90 100
悪い 普通 良い 大変良い

(3)各審査員は、得点一覧を、会場ごとに定める審査査査(開催県教育職審査員)に提出する。

(4)各審査員は、準決勝および決勝のすべての発表ごとに、講評を記載する。

7. 得点集計および順位(全部門共通)

(1)得点集計と順位

ア 準決勝 すべての審査員の最高点と最低点を除いた500点満点とし、合計点の高い順に順位を決定する。2会場に分かれる部門では、会場ごとに順位を決定する。

イ 決勝 すべての審査員の最高点と最低点を除いた800点満点とし、合計点の高い順に順位を決定する。

(2)順位決定の特例 合計点と同じ場合は次のア～ウの順に従って順位を決定する。

ア 専門職の得点(専門職が複数の場合はその合計点)の高い方を上位とする。

イ カットされた得点の高い方を上位とする。

ウ イで同点の場合は、審査会で順位を決定する。

(3)準決勝の審査会は、各部門の教育職審査員で構成する。準決勝審査会は(2)ウの場合のみに開催するものとし、18時までに審査会の有無を総会(顧問会議)に通知する。18時までに審査会の有無が決まらず、その後審査会が必要になった場合のみ、審査主査に審査会の権限を委任する。

(4)決勝の審査会は、各部門の審査員全員で構成する。決勝審査会は必ず開催するものとする。

8. 決勝(全部門共通)

(1)決勝進出者は2月3日(日)9:15に会場で発表する。

(2)決勝進出者(作品)は当日指定する場所でエントリーの手続きを行う。

(3)決勝のエントリー順は乱数を用いて指定する。

(4)決勝審査では、準決勝の得点を参考にしない。

9. 規定違反(全部門共通)

(1)規定違反は審査の対象としない。なお、重大な違反が判明した場合は、大会後においても賞を取り消すことがある。

(2)計時の許容範囲は、アナウンス部門と朗読部門は±2秒、ラジオキャンペーン部門とテレビキャンペーン部門は±1秒とする。ただしアナ朗決勝でのタイムオーバーのみ失格とせず、得点にかかわらず奨励賞とする。

10. 講評・審査結果一覧(全部門共通)

(1)講評用紙はコンテスト終了後に該当校に交付する。

(2)CD/DVDはコンテスト終了後に該当校に返却する。

(3)審査結果一覧(審査点のみ記載、決勝進出の準決勝審査点是非公開)は、コンテスト終了後に各県事務局に送付する。

10月に公表した要項・規定との変更点一覧

開催要項

10. 表彰...(3)特例を追加

(3)特例...東北6県以外からのエントリー(オブザーバー参加)が決勝に進出した場合,(1)(2)によらず,特別賞とする。

(順位は,制作・審査規定10(3)のとおり,後日公表する)

11. 日程...時間を一部変更

・2/2(土)

朗読部門準決勝Bの開始時間を明示

アナウンス部門準決勝B開始を10分繰り下げ

・2/3(日)

決勝審査員打合せの終了時間を明示

テレビキャンペーン部門決勝開始を10分繰り上げ

アナウンス部門決勝開始を20分繰り上げ

朗読部門決勝開始を10分繰り上げ

決勝審査会の時間・場所を明示

参加規定...変更なし

制作・審査規定

1. アナウンス部門 と 2. 朗読部門 (5)準決勝イ...次の文言を追加

イ 各会場から10名ずつ,計20名を決勝に推薦する。東北6県以外からのエントリー(オブザーバー参加)が規定の順位に入った場合は,前記とは別枠で決勝に推薦する。

(規定の順位とは,各会場の東北10名。今大会では,アナ朗の2部門にオブザーバー参加がそれぞれ3名あることから,決勝は,最少20名,最大23名で実施する)

3. ラジオキャンペーン部門 と 4. テレビキャンペーン部門 (7)準決勝...次の文言を追加

(7)準決勝

10本を決勝に推薦する。東北6県以外からのエントリー(オブザーバー参加)が規定の順位に入った場合は,前記とは別枠で決勝に推薦する。

(今大会では,ラジオキャンペーンとテレビキャンペーン部門にオブザーバー参加はない)

以上